



ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市住山420 TEL (079) 595-1365 振替口座 00930-6-29629

この子のいのちが輝くために
私たちに何が出来るか



嵐の中の友を思う

篠山ナマステ会

代表 杉原 一三

篠山ナマステ会の設立から五年を迎えようとしています。地球上で天空に最も近く、真っ白な万年雪を身につけた神々しいヒマラヤを、私たちは何回仰ぎ見たでしょう。この五年の歳月に会員の皆様それぞれに、色々な出来事を経験されている事と思います。

篠山ナマステ会として一番うれしい事は、篠山市内外の多くの皆様のご支援と、ガハテ村の皆さんの頑張りによって、遠くネパールの山の村に、子どもたちの教育という種が播かれ、大切に育てられて、「セティディビ小学校」という花が立派に咲いた事ではないでしょうか。

この花にガハテ村の皆さんと、私たち篠山ナマステ会が協力して、水をやり土を耕して、将来立派な実を实らせるように努力することが、ヒマラヤの天空に居られる、故渡辺ご夫妻の意志を引き継ぐことであり、私たち篠山ナマステ会員一人ひとりの願ひであると思います。

ところが今、ネパールは大変な動乱の渦に見舞われて、現地とのコミュニケーションが取りにくい状態が続いており、あの元気なガハテ村の子どもたちはどうしているか、身の上が心配で、遠く離れて嵐が過ぎ去るのを、ただ待つしか出来ないのは辛いです。一刻も早くネパールに平和が訪れ、自由な交流が出来る日が来る事を祈っています。

混乱のネパール

歴史的背景とその行方

ネパール王国では二〇〇五年二月一日、突如ギャネンドラ国王による首相解任が行われ、「三年以内に複数政党制による民主主義を回復する」という条件の下、国王による政治の全権掌握と国家非常事態宣言が出されました。

併せてマオイストに対しては、武装闘争をやめ、和平交渉に応じるよう呼びかけを行いました。

非常事態宣言

二月四日、国王新政府は閣議を開き、国難を乗り切るために、汚職撲滅、土地の分配、農業の近代化、社会的弱者のための教育の無料化、失業問題の解決など、二十一項目のプログラムを掲げました。そして、これらの課題を強権を持って遂行する必要上、人権に関する憲法の諸条項の停止を発表したのです。

ネパールへ調査に入ったアムネスティ・インターナショナル（人権侵害をなくすために活動しているNGO。国連の経済社会理事会の特別協議資格をもつ）の緊急アピールによると、制限または停止されることになった権利には言論・表現の自由、集会の自由、

国内移動の自由、検閲なき報道出版の自由、予防拘禁されない権利等、九条項が掲げられています。

アムネスティ・インターナショナルはネパール国民の人権回復を世界にアピールし、国連人権高等弁務官も、非常事態宣言下であっても基本的人権は停止されてはならない、との声明を出しました。

ネパールでは二十世紀末までパンチャーヤット体制といわれる国王の専制が続きましたが、一九九〇年に入って世界的な民主化の影響を受けて、民主主義が実現しました。

新憲法が制定され、政党政治が進められてきましたが、重要な課題であった農村の貧困状況の解決について、残念なこと民主化後の政権を担当した政党は、その核となる

土地改革（土地を持たない層に土地を分け与える）を十分に成功させることができませんでした。

武装ゲリラの浸透

民主化以後、経済活動の活発な首都圏への人口集中が始まり、富が都市に偏在する反面、ネパールの農業は山の急斜面を耕した棚田が多く、その労働は厳しくて、近代化が進まず、農民の自給自足状態から抜け出られません。

このような農村の状況をマオイスト（ネパール共産党毛沢東派）は、その勢力拡大にうまく利用しました。その政治目標は立憲君主制の廃止と共和制の樹立にあり、当初は国王の特権廃止、制憲議会の選挙等を要求しました。そしてその要求を実現するため、一九九六年に反政府武装闘争を宣言しました。

王室の事件

この間二〇〇一年六月にはブレンドラ国王一家全員を含む十人の王族が亡くなる王宮事件があり、弟のギャネンドラ

ラ国王が即位することになりました。他方中央政界は政党間の権力闘争もからんで混乱しました。二〇〇二年五月に首相が国会を解散し、十月総選挙をめぐって国王と対立した首相が罷免されて以降、選挙は実施されていません。自治体の長も任命制が続くなど議会政治は停止したままの状態となり、国軍・警察とマオイストとの武力闘争が激しさを増して、治安状態はますます悪化し、この政治の空白の中でマオイストの勢力は深く農村部に浸透したといわれています。

治安の悪化

このような情勢の中で、先の二〇〇五年二月一日の政変が起きました。ギャネンドラ国王は、「平和で安全な環境の下で総選挙を実施する」という使命を果たせなかった」とを理由に首相を解任したのです。

マオイストは国王の和平交渉の呼びかけに対し「新憲法制定を目指す制憲会議と複数政党制民主主義による共和制」を求め、「独裁体制を布いた

国王とは対話の可能性がなくなった」と声明を発表しました。現在、ネパールは非常事態宣言の下、市民の中には国王の親政を歓迎する動きもあり、平和で安心できる社会をつくるために、その政治に期待する声が聞かれます。

他方、一部政党関係者が軟禁状態に置かれ、電話・インターネット等はカトマンズ等を除いて遮断された状態であり、ラジオ・新聞・TVも検閲が進められています。

市民生活に影響

国王の強権発動によって、首都圏は表面的には落ち着いているものの、マオイストの交通妨害などにより、生活必需品の流通が滞り、物資の欠乏と値上がりによって、市民生活に大きな影響が出ています。

一方、地方の状態がどうなっているか、情報として入ってきません。この国の将来がどうなるか全く予断を許さない状態にあります。ネパールの一日も早い安定を祈るばかりです。

市内の小学生と 交流の文通

セティディビ
小学校の二年生
と卒業生（日本
では六年生）か
ら二度目の手紙
が届きました。

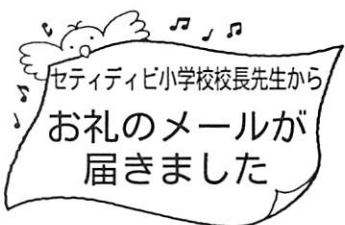
今回も篠山市
の城北、日置、
大山、古市の各
小学校児童が返

事を書いてくれました。その
手紙は日本語から英語、ネパ
ール語と順番に翻訳されて、ネ
パールの子どもたちに渡され
ます。まだお互いの紹介、質
問が主ですが、一人ひとりの

ポートレートを添えた学校、
写真や絵をたくさん入れた手
紙、学級全員に先生も入れて
の寄せ書きなど、児童の心と
先生の協力がいっぱい詰まっ
た手紙を託されました。

最初は代表が直接持参する
予定でしたが、ネパール行き
が中止になりましたので、一
月中ごろに郵送しましたが、
約一週間で無事着いたとの知
らせを受け取りました。

校長先生からのお礼のメー
ルが来ましたのでお伝えしま
す。双方の子ども達が異文化
を理解するひとつの入り口に
なればと思っています。



まず、
自己紹介
をさせて
いただき
ます。私
はネパ
ール政府の
王権によ
って任命
され、二

〇〇四年七月十六日から、セ
ティディビ小学校の校長に就
任した、ナラワジ・サブコタ
と言います。
こちらへ就任する前は六年

間私立寄宿英語学校校長とし
て勤務していました。
殆どの人が社会の中で取り
残され、低いカースト、また
は穢れているとさえみなされ
ているような状況の村に支援
を頂いて、ナマステ会の皆さ
んには心から感謝しておりま
す。

識字率はとても低く、女性
の教育については特に悪い状
態です。殆どの村人が農業に
頼っているため、学校に行っ
ていない子どももいますが、
現在では親たちは、子どもた

ちを学校へ行かせ始めていま
す。

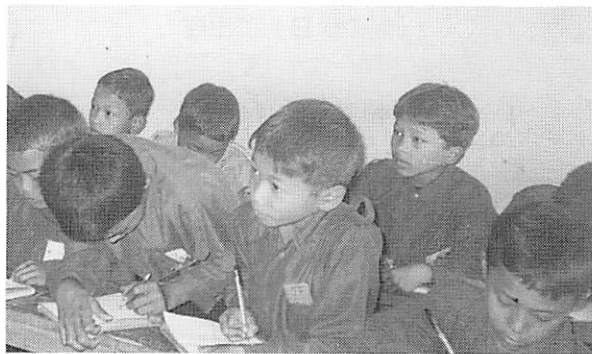
こちらの教師と生徒、皆元
気です。全員が、特に生徒た
ちが日本の生徒さんたちから
送られた手紙や写真を受け取っ
てとても喜んでいきます。ここ
らの教師と生徒たちも手紙を
日本へ送りたいのですが、エ
アメールを送るための住所が
わかりません。

もし、彼等からの手紙に興
味を持っていただけるのなら、
次回のメールで住所を教えて
下さい。

十二月に皆様にお会いでき
るのを楽しみにしていましたが、
ネパールの状況から判断
して、訪問が延期になったと
聞いたときには、私たちは驚
きました。

最近では学校はうまく運営
されていますが、時々カストに
よって妨害されることもあり
ます。（中略）

最後に、学校へのあなた方
の支援全てにもう一度お礼を
申し上げます。私の学校運営
のもとに、社会と同様に生徒
たちの教育の向上のために、
精一杯努力いたします。
お返事を楽しみにしており
ます。



「ご寄贈いただきました

ネパール語小辞典V版
（簡易ネパール語文法、
会話例文付）

編者 森田 宏

森田かとり

監修 アン・パサンシエルパ

編者森田宏さんは、篠山ナ
マステ会の顧問園田栄子さん
の従兄弟に当たります。
そのご縁で森田さんから園
田さんを通じて、ネパールを
訪ねる人や、文通などに役立
てばとご寄贈いただきました。

マオイスト

毛沢東思想に共鳴し、革
命政府の樹立を目的とする
武装ゲリラ集団。十年ほど
前から次第にその勢力を拡
げて、今ではネパール国土
の三分の一を支配してい
るといわれている。

山間部の学校を占拠して
先生を拉致し、思想教育を
施して銃を持たせて戦闘に
参加させたり、首都カトマ
ンドウへの国道にバリケ
ードを築いて封鎖し、これ
を排除しようとする治安当局
との間に激しい銃撃戦を繰
り広げるなど、その活動は
益々エスカレートしている。
プロレタリア国家に必要
なものは軍隊と農民だけで
あり、特権階級やインテリ
を徹底的に排斥するという
超過激派集団を、どのよう
に制圧するか、武力に対し
て武力で対抗するだけでは、
問題の根本解決にはならな
いと思うのだが、諸外国の
援助に大きく依存している
ネパール王国の将来にも関
わる事件として、その行方
が心配されている。



2004年 地域活動レポート



◇ 8月15日～16日

「デカンショ祭街頭募金」

篠山鳳鳴高校インターアクト部と卒業生の協力で街頭募金を行いました。『デカンショ祭』の人出で賑わう街角に立って、「ネパール・セティディビ小学校の運営支援にご協力下さい」と、ゆかた姿の高校生と一緒に『ガハテ村通信』を配布するナマステ会ロゴ入りTシャツ姿の会員。

祭りを楽しむ人々から「ご苦労さん、頑張ってる」の声援に、副代表の上田さん、支援交流部の村上さんたちは、募金に応じて下さる人たちに、「ガハテ村通信」を手渡ししながら、「ナマステ」「ナマステ」と両手を合わせていました。

◇ 8月28日

「愛の縁日」に出展

四季の森公園で開かれた「愛の縁日」に、ネパールカレー、チャイ、ビールなどを販売しました。アジアのグッズバザーには、PHD協会も参加し、縁日の主催者、障害を持つ人々と愛がたっぷりの交流を楽しみました。

PHD協会が招いた研修生、インドネシアのアフリタさん（19歳女性）は、8月16日から篠山市で保健衛生、保育の研修中でしたが、この日ホームステイ先の、ナマステ会事務局長小嶋英毅お父さんと一緒に、元気に参加して、久しぶりに出会うPHD職員を安心させていました。

◇ 8月29日

前日に引き続き、交流会

PHD協会の研修生、インドネシアのアフリタさん、フィリピンのハイディさん、という二人の女性との交流会を、四季の森生涯学習センターで行いました。

研修生たちはPHD職員のアドバイスを受けな

がら、出身国の様子をスライドで紹介しましたが、日本へ来てまだ4ヶ月しか経っていないのに、完全に日本語をマスターしているのに先ず感心しました。

続いて親子3代にわたって長年、国内外から若者の農業研修を受け入れるなど、一家を挙げて人材育成に取り組んでこられた味間奥の農業士、原久美さんから、今までに受け入れてきた研修生とのさまざまな交流体験が語られました。

当日の参加者30人余りが、それぞれの草の根レベルの交流を通じて、共に生きる社会のあり方を考える、中身の濃い集いでした。



◇ 10月31日

「国際理解フォーラム in ささやま」

国際理解センター主催の「国際理解フォーラム in ささやま」はこの4月に新築移転された篠山中学校で開催されました。篠山ナマステ会は「ふれあい地球村交流サロン」にネパールチャイを70人分用意して、ネパール文化を紹介しました。

また、PHD協会と共同で設けた南太平洋グッズバザーも、副代表山岸さんの説明が好評で、多文化理解と紹介の場となりました。

折から台風23号や、中越地震の災害に心悼む時、ナマステ会では救援募金を呼びかけて、参加者から多くの善意を頂きました。

有難うございました。

◇ 12月8日～12日

「人権フェスタ in 篠山」

篠山市民センターで開かれた「人権フェスタ in 篠山」に参加し、ガハテ村の人々の暮らしや、子どもたちの写真を展示。篠山ナマステ会活動の趣旨を「ガハテ村通信」や立看板で紹介し、11日にはフェスタに集う人々とネパールグッズの販売を通じて交歓しました。